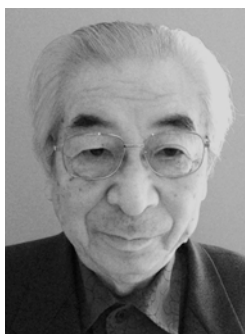


製糸の副産物KI・BI・SOを 世界ブランドに

独立行政法人 中小企業基盤整備機構東北支部
東北地域活性化支援事務局統括プロジェクトマネージャー

小島壯司



田中 尹理事長

鶴岡織物工業(協)
本社 山形県鶴岡市安丹
 字村上1-1
 ☎ 0235-22-0507
 http://www7.ocn.ne.jp/~tsuruori/
業種 織物製造・精練・
 捺染業
設立 1951年10月
出資金 324万7500円
組合員数 4社

庄内地域は、製糸工程から製織、精練、捺染まで、すべての工程を地域内に有する国内有数の絹織物の産地である。当産地ではこれまで、「鶴岡シルク」として知られる朱子羽二重をはじめとする織物を、主にアパレル市場向けに製造してきた。しかし、絹織物の市場の縮小は年々その速度を高めつつある。そのため、この地域は立地の優位性があるにもかかわらず、織

死中に活を見出す

維関連企業は直近十五年間で、企業数が七一%減、製造品等出荷額でも七〇%減と、大幅に減少している。

直接的要因は市況の低迷にあるが、これまでの取引形態にも衰退の芽があった。問屋やメーカーからの受託加工が中心であり、加えて個々の企業がそれぞれに取引を行ってきたことで、最終商品を見据えた製品開発を疎かにしてきたのである。これが、市況に振り回される下請産地体質をつくったと言っても過言ではない。

こうした苦境に直面する中で、これまでの産地のあり方が見直されることになった。そして、今後は国産シルクという資源の特性や絹織物製造企業の集積という立地上の利点を活かした製品開発に積極的に取り組むことにより、下請型の取引形態からの脱却を図り、産地から提案できるものづくりを行っていくこと——これが活路を開く唯一の道であるということが、強く意識されるに至ったのである。そこで、新たな突破口として着目したのが「キビソ」である。



キビソ (左) と生糸

キビソとは、製糸工程で生まれる副産物の太い糸である(写真)。一個の繭は約一二〇〇メートルの一本の糸からできている。この糸を繰り出す際、糸口を見出す過程で出る太い糸状の繭糸くずを緒糸という。蚕が繭を作る際に最初に吐き出した糸で、繭の一番外側にある。この緒糸を乾燥したものがキビソで、シルクが持つ抗菌性、高難燃性、UV(紫外線)カット、吸湿性その他の特性をすべて持つ。繭の三〜五%がキビソとなるが、太さが均一ではないことなどから従来は廃棄物だった。そのことは逆に、これまでのシルクにない風合いを有するということでもある。鶴岡織物工

業(田中尹理事長)は、二〇〇四年より地域からアパレル市場や消費者へ提案できるような新たなものづくりを模索してきた。〇七年度には、キビソの特性を活かしたランプシェードやカーテンを製作し「インテリアアトレンドショー」に出展した。こうした取り組みを通して、世界的なテキスタイルデザイナーから高い評価を受けたこともあり、独特の風合いを持ち、新たな可能性を秘めた素材として、デザイナーに販路を求めめることに照準を定めたのである。

立ちほだかる壁を乗り越えて

ところが新たな取り組みの前に大きな壁が立ちほだかる。繊維流通構造の特性で、これまで素材から最終製品製造の過程に中間業者が介在したため、同組合にはシルクの使い手であるアパレル、インテリア雑貨等の商品開発者、商品開発企業のニーズを直接取り込むノウハウがなかったのである。この状況を克服しない限り、使い手の求め

る素材開発がしきれず、適切な需要開拓ができないという決定的な問題に直面する。

中間業者を排除して取引を行えばいいのはわかっていたが、「言うは易し」である。反面そのことが別の製品開発・販売、量産品の受注等にマイナス影響をもたらす面もあり、業界の受注構造上の袋小路に迷い込むことになる。

そこで、組合理事長の田中氏は「キビソを牽引役として新しい市場開拓・価値創造を図る」と方向性を定めたのである。

アパレル市場、インテリア・雑貨市場では、低価格の海外量

産品を好む市場とは別に、高品質・高付加価値の製品市場がある。そしてアパレル業界では付加価値型商品開発のため、新たな素材・商品を求めている。そこで、最終製品のデザイン性やオリジナリティー向上のため、デザイナーや最終商品開発企業と直接連携を図り、素材からデザインしていくプロセスに積極的にコミットすることにしたのである。

未来へのスタート台に立つ

二〇〇八年十月六、七日に中

小企業基盤整備機構が運営するパイロットショップ「Rin」(東京・港区)で、本事業の成果であるキビソを活用した試作品をお披露目する「鶴岡きびそ展」が開催された。

二日間の来場者は四百七十名を数え、デザイナー、バイヤー、マスコミ等、各方面から新しい絹素材の素朴な風合いが絶賛された。さらに、テキスタイル三点が、アメリカのセントルイス美術館に永久保存されることになった。

キビソのブランドマークである「KI・BI・SO」の商標登録も済み、三年計画でブランドの確立を目指す。さらに、オーガニックコットンとのコラボによる新素材開発にも取り組んでいる。

長く低迷を続けた国産シルク市場。同組合の取り組みが世界に向けて絹織物の新たなマーケットを拓く……。大いなる期待を持って注目したい。

●お問い合わせ先

中小企業基盤整備機構東北支部
東北地域活性化支援事務局

☎022・302・8606



Rin で行われたキビソ展